

令和2年度 徳島県男女共同参画交流センター運営委員会議事録

- 1 日 時 令和2年6月26日(金)13:30～15:00
- 2 場 所 ときわプラザ2階 研修室1, 2
- 3 出席者
委 員 藍原理津子, 阿部頼孝, 大寺禮子, 中 央子, 中野由梨, 藤岡梨沙,
三石昇太郎, 山田 憲
事務局 男女共同参画交流センター所長, 男女参画・人権課長ほか

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事
 - 1) 事業実施状況について
令和元年度事業実績, 令和2年度事業計画
 - 2) その他

【事務局から資料等の説明】

【質疑概要】

委員長 今, 令和元年度の実績と2年度の事業計画の説明がありましたが, ご意見がございましたらどうぞ。

委員 事業費で推進事業が減っていますが, ワンストップセンターが増えているので事業費は変わらない, だいたい同じか。センターの費用はこれで間にあうのか。

事務局 事業費は, 推進事業が1058万円ほど減っているが, これは非常勤職員が会計年度職員に変わったことによるもので, 事業には影響がないものです。ワンストップセンターは今年度初めての事業となるのでこの中に工事費やネットワークの移設とか工事関連の費用が入っています。

委員 秋から工事に入るということであるが, 講座など予定は入っているが事業はどうするのか。徳島スマートライフ宣言で感染予防や新しい働き方をすすめていくということであるが, 今講座はかなり中止になっているが, オンラインでの開催とか相談業務をオンラインで受けるとか, 対応状況をお聞かせいただきたい。

事務局 ワンストップサービスセンターの工事の関係で事業に影響はあるのかということだが, 今年度の計画を立てる段階で工事の影響も考慮して計画をたてているところであり, アスティの会議室を借りたり, 会場をお借りして計画を立てているところである。オンラインについては, 確かに新型コロナウイルス感染症の関係で3密回避で対面は難しく苦慮

している。相談業務については、報道等で児童虐待やDVが増えてきているのではないかと心配されたこともあって、電話相談では心の不安や漠然とした不安もあり、面談が必要だということがあった。オンラインを検討した場合、どうしても心配になってくるのはセキュリティの問題である。今、ZOOMとか対面でお話をするというのがあがるが、個人情報の問題が出てくる。相談をしていただいている臨床心理士の方にも相談しながら、やはり対面でする方が心のケアには大事だろうということで、相談はオンラインは難しいと考えているところである。講座は、感染拡大が心配されているのでオンラインを検討していきたいと考えている。現在、具体的には決まっていない。

委員 家庭内の育児とかコロナ離婚とか増えてきているが、長期化すると法律相談を始め、専門家に相談したいというニーズもあると思うので、オンラインが難しかったら電話相談とか、外出ができない時期でも相談窓口があると安心、生活を守る上で必要だと思うので、備えて準備を進めてほしい。

委員 オンライン化をスピーディーに進めていかないといけないと思う。新型コロナウイルス感染症でいつ何時どうなるか分からない状況で、直接的な実施しかできないとなると中止の方向になってしまう。県民の学びの機会が失われてしまうのはよくない。オンラインで実施できる状況を今から作っていかないといけない。オンライン相談に関しては、いままで直接的な面談を中心にしてくると、直接がいいというのが前提としてあると思う。こういう状況になると、不安になったり相談したい方はたくさんいると思う。私も個人的にオンライン相談を受けたが、オンラインだから相談しやすかったという方もいた。わざわざ子どもをつれて行かないといけないとか、感染が不安で心配ということはあったので選択肢として、直接でも大丈夫だしオンラインでもと状況に応じて選んでいただけたらと思う。オンラインは情報格差が都市部と地方部ですでに開いている。こどもにオンライン授業を受けさせたが地方では参加者が少ない。都市部の人は慣れていてコミュニケーションを取りたがっている。徳島にいるから機会が失われるのはもったいないこと。センターを拠点にオンラインでも学びの機会が発信できるよう取組を考えていけたらいいんじゃないかと思っている。

事務局 確かに外出自粛になった状況で、オンラインが全面に出てきて、そういう方法なら接触が可能だということが社会的にも見えてきたところ。センターにおいてもオンライン化という方法を増やすのは大事だと思う。現在のセンターの利用者は高齢の方が多く、スマホをお持ちであれば方法がわかればできると思うが、出てくることで心が楽になる、そういう方もいらっしゃる。こどもさんを連れて外に出たいという方もいらっしゃるというのも事実である。新型コロナウイルス感染症に限らず、今後の状況を考えるとどっちの方法でもとれるという状況を作っていくというのは大事なことだと思っている。いろんなところに聞きながら研究中であり、そういう方法も使っている、使えない人はセンターで参加するという方法もあるんだと思うが、いろんな方法を検討していきたいと思っているところ。

委員 施設を運営しているが、3月くらいから事業が中止で、これまでは数値で評価されてきた部分が難しかったり、ソーシャルディスタンスを保たないといけないとなると、面積数からすると入らないということもある。評価は利用者の満足度指標で評価するのか、私どもも悩ましい。学校の授業も後れがちなので、科学教室に行きたくても授業がいっぱい拒否される。いい取組のデートDVの講座も行けるのか。中学校、高校も正直実践できるかどうかわからない。変えるのならどういった形で変えるのか。指標と計画のポイントを教えていただけたらと思う。

事務局 評価の方法は、行動計画の目標値として参加の満足度向上に力を入れていくということで、以前は講座の受講者数を目標にしていたが、今は一つ一つの事業の満足度を上げていくことにしている。講座の見直しにおいて、学校で出前で行っているデートDVの事業は、都市部ではDVが心配されていることもあって、初期の頃に計画していたところは、中止をしたところもあるが、できるだけ感染対策をとりながらということで実施するようお願いしているところ。夏休み中の講座をどこまでするかは、センターの方でも、体験的な事業、いつもしているお金教室や理科系のもは、学校が授業を進める中で体験的なものが少なくなっているということも聞こえてきているところなので、感染防止を図りながら、実施していきたい。学校に出向いてということではないが実施していきたいと思っているところである。

事務局 デートDVの講座のことについて補足すると、学校も授業時間の確保のため難しくなるかと思いついたところ、午前午後に分けて実施や大きいホールを借りて少人数で実施など工夫しながら実施するということがあった。こういった時期だからこそ、デートDVの講座は大事だということで実施していただけたのかなと感じている。

委員 令和元年度は企業等のコラボが増えているので新しいことをしたのか教えてほしい。企画委託事業が、毎年5月30日が締切りだったのに、急に2週間くらいでということであわてた。女性団体の総会が5月中旬か6月の初めにあるので、毎年5月30日の締切りが意思疎通のないまま提出することとなる。タイムテーブルとして、この時期をずらしてほしい。フレア徳島の相談室の実績のアンケート調査のその他97は多い。どんな内容か。企画委託事業のアンケートもその他が21になっているので教えてほしい。

事務局 フレアキャンパス講座の増えている部分は、昨年度男女協調週間から7月、8月を男女協調月間としたことにより、県立図書館で展示を行っていた期間を延ばしたことで見ていただける方が増えた。企画委託事業は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、選定するスケジュールとの関係で募集時期も短くなって申し訳ない。時期については、来年度考えていきたい。

事務局 グラフのその他は、後日回答する。

委員長 今まで提出された資料に関連して意見をいただいたが、資料に関わらなくてもいい

いので、感想でもご意見でもお願いしたい。

委員 新型コロナウイルス感染症の影響はあると思うが、今だからこそ、テーマが絞りやすいということもあると思う。オンラインをどこまで知っているかは差があると思う。仕事で障がい者の方と関わりがあり、保育士でもあるので子どもに目が行くが、ゲーム依存とか子どもさんの親自身がどう接したらいいか、どう関わりを持ったらいいか、県民の人に広げる講座を実施してもいいかと思った。図書の件数がガクッと減っているのが、どうしてかと思う。子育て世代の方にお勧めしたら、人が少ないので使いやすかったという声もあった。どの本を選ぶかということで対応してくれる職員が保育士かどうかかわからないが、専門的な人が絵本を選ぶとか難しいというのはあるが、どこまで対象者の目線にたったことが案内されているのかということはある。障がいをお持ちのお子さんがいると参加しにくい。託児はあるが、障がいを持っていたら難しい。障がい児を支援する方が入れれば可能になるのか、検討してもらえる材料になるのか。障がい特性に応じて難しいということがあったが、障がい者支援の方が入ると可能になるのか、ハードルがあるかもしれないが考えてもらえたら使い方が広がるかと思う。

事務局 センターの推進をしている職員は元教員。いろんな子どもさんと関わってきているので、関わりは深い。新型コロナウイルス感染症で講座ができない頃は、家庭にいる子どもさんや親御さんのことを心の底から心配していて、何ができるか考えていたところ。直接的なことにはならないが、少しでも出てきていただけることで心が安らぐのではないかということがあって、たとえば、本を借りに来ていただいた方にお声がけすることで、少しでも心が楽になるのではと思っているところ。講座については、親子で参加できるものは従来からしているが今年度も実施する方向で考えているところ。直接的な支援にはならないかもしれないが、少しそういう部分を含めた内容を考えているところ。図書の貸し出しが減っているのは、3月の講座が中止になった関係で、貸し出しだけに来てくれる方もいるが、講座に来たついでに貸し出しをすることもできるので貸し出し数にも影響を与えている。講座ができなかった期間には、図書業務でお勧めとか、これまで時間がなくてできなかったところを充実させているところである。

事務局 障がいをもたれている方を預かったこともあるが、単発的にお預かりするので、いつも預かっていればどうしたらいいとかがわかるが、障がいをもたれていると余計にそのさじ加減が難しい。私どももどうしたらいいかというのがあるので、専門の方に入ってもらえるのはありがたい。指定管理であるので、入ってもらえるのが可能かどうかはある。

委員 図書業務は、選びやすいしわかりやすいというのを図書館業務の中に作っては。たとえば、乳児期までの絵本は県下一とか、文化の森より充実しているのかなにかあれば知名度は上がるし、いい選べるものがあるというのがあればわかりやすいし、売りとなって、口コミで広がるのでは。託児ではみてくれんというのが、障がいをもたれている親はそこがトラウマになっているところもある。とりあえず、ならしていけるかと思うし、ハード面、指定管理者としてそこに人が入ってもらって緩和的に考えてもらって、共同でやれるよう

な仕組みも仕事の中で考えていけたらと思う。

委員 お話を聞いて、よく話題に出たのがオンライン。個人的な考えであるが、相談室をオンラインでするとなった時に、オンラインだとできないということが出てこないか。出てこれなくなる空気が出るのかなと感じた。都会と比べると徳島は車の移動が主となる。感染者が少ない理由の1つとして集団での移動が少ないというのがあるのかと思う。オンラインが流行ったときに、話しづらくなる、行きづらい環境になるのかなというのが心配。面接は1対1だと思うので、来てもいいというのを積極的に発信してもいいのではと思った。オンラインがあかんわけではないが、直接来る人にも積極的な呼びかけが今だから必要かと思った。

委員長 いままで経験したことのない領域に入っている。あいポートは実績をあげているが、勝利の方程式があって、地理的な面でハンディキャップがあるので、これでもかと思っただけで、必ずアンケートをとって、毎年報告書を作っていた。それができなくなった。シルバー大の講師をしているが全部無くなった。年齢的に考えて可能なのは有線テレビで視聴するという。未知の世界に旅立っているということが言える。その中でこのセンターの強いところは、外部委託事業があって、センターがやっている事業だけでなく、委託事業でやっているのが大きい。当センターはリソースを持っていることができる。今回は新型コロナウイルス感染症に関連づけたものもしている。新型コロナウイルス感染症は感染者が5人で終わりと思っていたら6人目が出て、現在進行形という状況になるが、それぞれ委員からいただいた貴重な意見を参考にして今後活かしていきたい。

事務局 本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。また、委員の皆様方にはいろんな角度からご意見をいただきまして、大変参考にさせていただきたいと思う。先ほど委員長から未知の世界という話もあったが、センターも手探りの中、行っておりますので、今いただいた意見は大変ありがたいと思っている。今後とも職員一同頑張っていきたいと思っているので、ご支援御協力をお願いしたいと思う。

委員長 これで運営委員会を終了します。議事の進行に御協力いただきましてありがとうございました。